



最初にお読みください

CentreCOM 8316XL/8324XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8316XL/8324XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0249-10 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0249-11 Rev.F）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.7.7-00

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 2.7.6-05 から 2.7.7-00 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 MAC スラッシング検出

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

ループガード機能として、MAC スラッシング検出機能が追加されました。これは、意図せぬループ構成などによって発生する MAC アドレススラッシング（同一 MAC アドレスの登録ポートが頻繁に変更される現象）の検出時に、関連するポートで MAC アドレスの学習を停止したり、ポートをディセーブルにしたりすることのできる機能です。設定は、SET SWITCH PORT コマンド、CREATE/SET SWITCH TRUNK コマンド、SET SWITCH THRASHLIMIT コマンド、SET LACP コマンドに追加された THRASHACTION、THRASHTIMEOUT の各パラメータで行います。

2.2 拡張モジュール「AT-A50」の通信モード設定

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

SET SWITCH PORT コマンドにおいて、拡張モジュール「AT-A50」を使用するポートの通信モードを 100MFULL/100MHAF/1000MFULL/AUTONEGOTIATE から選択できるようになりました。

2.3 DHCP Snooping のクライアント削除条件

 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「DHCP Snooping」

DHCP Snooping において、バインディングデータベースから DHCP クライアント情報を削除する条件を設定できるようになりました。設定は SET DHCPSPNOOPING CHECKOPTIONS コマンドで行います。デフォルトのリース満了時以外に、DHCP RELEASE パケットを受信した場合、クライアントが所属するポートがリンクダウンした場合を追加指定できます。

2.4 マルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP)

 [「コマンドリファレンス」/「スパニングツリープロトコル」](#)

IEEE 802.3s 準拠のマルチプルスパニングツリープロトコル (MSTP) をサポートしました。MSTP では、複数の VLAN をグループ化した MST インスタンスごとにスパニングツリーを構築し、負荷分散を行うことができます。また、MSTP では、ネットワーク上のブリッジ (スイッチ) を MST リージョンと呼ばれるグループに分割することで、ネットワークの設計や管理を容易にすることができます。

2.5 IPv6 Neighbour キャッシュエントリーの削除

 [「コマンドリファレンス」/「IPv6」](#)

IPv6 の Neighbour キャッシュのダイナミックおよびスタティックエントリーを個別に削除できるようになりました。エントリーの削除は DELETE IPV6 ND コマンドで行います。

3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **2.7.6-05** から **2.7.7-00** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 トランクグループに所属するポートを、DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーターの指定で物理的にリンクダウンさせた後で、ENABLE SWITCH PORT コマンドでリンクアップさせると、ポートトランキングが正常に動作しなくなりましたが、これを修正しました。
- 3.2 SET SWITCH PORT コマンドで設定した DESCRIPTION パラメーターの値が SHOW INTERFACE コマンドにて表示される Interface の名前に反映されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.3 BPDU 透過機能とポートトランキングを併用時に BPDU フレームを受信すると、ポートトランキングのマスターポート以外にも BPDU フレームがフォワーディングされループが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 CREATE VLAN コマンドの VID パラメーターを入力中に Tab キーを押してヘルプを表示すると、最大値として誤った値が表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 3.5 トランクグループに含まれた複数のポートに対して SET STP PORT コマンドの各パラメーターを変更し、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存すると、ポートごとに 1 行のコマンドとして保存され、起動スクリプトとして設定した場合、再起動時にエラーが表示され、設定が正しく反映されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.6 複数のトランクグループと、デフォルト以外の STP ドメインを併用した場合、再起動後、SHOW STP PORT コマンドを実行して表示される STP の状態が正しく表示されませんでした。これを修正しました。
- 3.7 IPv6 脆弱性 (JVN#267289) への対策を行いました。

4 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **2.7.7-00** には、以下の制限事項があります。

4.1 スクリプト

スクリプトで IF THEN ELSE 文を使用する際、比較対象文字列の長さが 32 文字以上の場合、スクリプトが正しく動作しません。31 文字以下の長さの比較対象文字列を使用してください。

4.2 認証サーバー

 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「認証サーバー」

- 複数の IP インターフェース (IP アドレス) を設定している場合、RADIUS Access-Request パケットの始点 IP アドレスと NAS-IP-Address の値が異なることがあります。両者を一致させたい場合は、RADIUS サーバーの指定時 (ADD RADIUS SERVER コマンドの実行時) に、LOCAL パラメーターでローカル IP インターフェースを指定してください。
- RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。

4.4 アップロード・ダウンロード

 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「アップロード・ダウンロード」

- TFTP によるアップロード時 (UPLOAD METHOD=TFTP)、IPv6 アドレスの指定ができません。
- ZMODEM によるファイル受信時 (LOAD METHOD=ZMODEM) にターミナルソフト側で送信をキャンセルすると、コマンドプロンプトに復帰しないことがあります。ターミナルソフトが Windows 付属のハイパーターミナルの場合、本現象は起こりません。

4.5 ログ

 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「アップロード・ダウンロード」

DESTINATION=NVS のログ出力先定義に対し、SET LOG OUTPUT コマンドで MESSAGES パラメーター (保存件数) を変更すると、すでに NVS 上に保存されていたメッセージがすべて消去されます。

4.6 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- イーサネット MIB の dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。
- イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- 既に作成されているユーザーグループに対して SET SNMP GROUP コマンドで SECURITYLEVEL を変更することはできません。
- SNMP マネージャーと通信しているトランクポートのケーブルを抜くと、リンクダウントラップが送出されない場合があります。

4.7 SHOW NTP コマンドの「Host Address」表示

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**

本製品の IP アドレスを変更しても、SHOW NTP コマンドの「Host Address」欄（NTP モジュールの使用している IP アドレス）が更新されません。これは表示だけの問題で動作には影響ありません。

4.8 非同期ポート

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「非同期ポート」**

- SET ASYN コマンドの PROMPT パラメーターでコマンドプロンプトの文字列を変更した後、「SHOW CONFIG DYNAMIC」を実行すると、プロンプト文字列がデフォルト設定に戻ります（SET ASYN コマンドの設定自体はダイナミックコンフィグ中に残っています）。
- 非同期ポート端末の画面あたりの行数をデフォルトの 21 またはそれ以上に設定した場合、SHOW IP ARP コマンドの結果が設定した値 +20 行分表示されます。

4.9 ターミナルサービス

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」**

TELNET コマンドの実行時に DNS サーバーへの問い合わせが行われた場合、DNS サーバーからの応答に IPv6 アドレスが含まれていると、TELNET コマンドが反応しなくなります。

4.10 ポートランキング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

- 同じポートにポートランキングとポートセキュリティーを併用した場合、ポートセキュリティーにより登録した MAC アドレスがトランクグループに移動しません。
- ポートランキングとスパニングツリープロトコルを併用した場合、古い番号のポートがマスターポートになる場合があります。
- ポートランキングと IGMP Snooping の併用時、マスターポートがリンクダウンすると SHOW IGMP Snooping コマンドで表示される Entry timeout 値が更新されます。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。
（「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポートを示します）

- 通常、トランクグループに属するポートは、同一 VLAN の所属で、同一のタグ設定（タグ付き・タグなし）にする必要がありますが、ポートをトランクグループに登録後、SET VLAN PORT コマンドによりポートごとのタグ付きまたはタグなしの変更を行うと、「Operation Successful」と表示され、変更が適用されます。VLAN のタグ付き・タグなしを変更する場合は、トランクグループに所属するすべてのポートについて同じ設定を行ってください。
- マルチプル VLAN（Protected Port VLAN）のアップリンクポートに設定したポートとクライアントポートに設定したポートを、同じトランクグループに所属させることができてしまいます。アップリンクポートとクライアントポートは同一のトランクグループに所属させないでください。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドの PORT パラメーターでトランクポートを指定した場合、指定ポートがマルチプル VLAN（Protected Port VLAN）の同一グループ所属であるかのチェックが行われません。これを回避するため、マルチプル VLAN とポートトランッキングを併用するときは、先にトランクグループを作成してから、トランクグループをマルチプル VLAN に割り当ててください。

4.11 LACP (IEEE 802.3ad)

 **「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「LACP(IEEE 802.3ad)」**

- LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。
- トランクグループ内のポートがリンクダウンすると、トランクグループ内の他のポートもリンクダウンするため通信が一時的に途絶えることがあります。
- LACP とポートセキュリティを併用すると、LACP によるトランクポートの生成は行われません。

4.12 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート認証」**

- 802.1X Multi-Supplicant モードの Authenticator ポートでは、Port Status が authorised でも IGMP Query パケットがフラッディングされません。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで $\text{TIMEOUT} \times (\text{RETRANSMITCOUNT} + 1)$ の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Supplicant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。
- SNMP マネージャーで、dot1xAuthAuthControlledPortControl の情報を変更 (Set) した後、設定を保存すると、設定の変更が設定ファイルに反映されません。Authenticator ポートの状態を手動で変更する場合は、SET PORTAUTH PORT コマンドの CONTROL パラメーターで指定してください。

4.13 バーチャル LAN

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

通信中のポートを新しい VLAN に割り当てると、新旧の VID で登録された MAC アドレスが FDB に共存してしまい、VLAN を越えてユニキャストメッセージが通信されてしまう場合があります。この現象を回避するには、RESET SWITCH FDB コマンド、リンクダウン、エージングタイマーの発動によって FDB の MAC アドレスを削除するか、ポートが通信を行っていない状態で VLAN の割り当てを行ってください。

4.14 スパニングツリープロトコル

 **「コマンドリファレンス」/「スパニングツリープロトコル」**

ポートトラッキング（または LACP）とスパニングツリープロトコル（STP/RSTP）を併用する場合、トラッキンググループのマスターポートがリンクダウンすると、トラッキンググループ内の他のポートが正常にリンクしているにも関わらず Topology Change が発生します。

4.15 マルチブルスパニングツリープロトコル

 **「コマンドリファレンス」/「スパニングツリープロトコル」/「Multiple STP」**

- マルチブルスパニングツリープロトコル（MSTP）を有効にすると、ミラーポートから BPDU を送信します。
- マルチブルスパニングツリープロトコル（MSTP）を有効にすると、ランタイムコンフィグから DELETE VLAN コマンドの設定が削除されます。これを回避するには、再起動トリガーを使用して起動直後に同コマンドを実行させてください。
- SET MSTP コマンドの PROTOCOLVERSION パラメーターに RSTP を指定するとループが発生します。本製品の配下に RSTP 動作中のスイッチが存在している場合でも、PROTOCOLVERSION には RSTP を指定せず、デフォルト値の MSTP でご使用ください。

4.16 フォワーディングデータベース

 **「コマンドリファレンス」/「フォワーディングデータベース」**

エラーパケットを受信したときも、送信元 MAC アドレスをフォワーディングデータベース（FDB）に登録します。

4.17 ハードウェアパケットフィルター

 **「コマンドリファレンス」 / 「ハードウェアパケットフィルター」**

フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリを作成した場合、このエントリはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチしてしまいます。

4.18 IP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」**

本バージョンでは、PURGE PING TOTALLY コマンドは未対応となっております。

4.19 IP インターフェース

 「コマンドリファレンス」/「IP」/「IP インターフェース」

- DHCP クライアント機能を有効から無効に変更しても（IP アドレスを固定設定しても）、該当インターフェースから DHCP サーバー宛での要求パケットが送信され続けることがあります。
- ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス（IP アドレス / ネットマスク）を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

4.20 IGMP

 「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。
- IGMP 設定時、StartUp Query Count は本来 Robustness Variable と同じ値になるはずですが、Robustness Variable-1 となっています。

4.21 IGMP Snooping

 「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP Snooping」

IGMP Snooping 使用時、複数のメンバーが存在するマルチキャストグループから 1 つのメンバーが脱退すると、SHOW IGMP SNOOPING コマンドで表示される Entry timeout が更新されます。

5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

取扱説明書、および「CentreCOM 8316XL/8324XL コマンドリファレンス 2.7 (Rev.F)」の補足事項と誤記訂正です。

5.1 スタンドキット「AT-STND-J01」について (CentreCOM 8316XL のみ対象)

 「取扱説明書」17 ページ

取扱説明書に記載がありませんが、CentreCOM 8316XL はスタンドキット「AT-STND-J01」に対応しています。

5.3 フラッシングレートについて (CentreCOM 8324XL のみ対象)

10/100Mbps ポートが 24 ポートリンクした状態で、拡張モジュールの 1000Mbps ポート（ポート 25）からフラッシングパケットを送信すると、1000Mbps ポート（ポート 26）から送信されるパケットの転送率が下がる場合があります。

5.4 SNMP について

 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

ブロードキャストパケット受信時に、SHOW INTERFACE コマンドで表示される VLAN インターフェースの ifInDiscards がカウントされます。

5.5 ログ機能について

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

出力先に「TEMPORARY」と「PERMANENT」を設定して CREATE LOG OUTPUT コマンドで出力先の定義のみ行って設定を保存し再起動すると、メッセージフィルターのエントリーが設定されないためログは出力されないはずですが、ログが出力されることがあります。

これは、本製品がデフォルトの状態ではログ機能が有効であり、起動時にログの出力先として「TEMPORARY」と「PERMANENT」を設定して、メッセージフィルターが追加されるため、設定ファイルの CREATE LOG OUTPUT コマンドが実行されるまでの間、ログが出力されるためです。

5.6 スイッチング動作について

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- パケットの送信先 MAC アドレスが BPDU のアドレスになっていても、DSAP (Destination Service Access Point) / SSAP (Source Service Access Point) に「0x42」が指定されていない場合は、BPDU 透過機能の対象にはなりません。
- 予約済マルチキャストパケットの処理で、送信元アドレスが、01-80-C2-00-00-00 ~ 01-80-C2-00-00-10 および 01-80-C2-00-00-20 ~ 01-80-C2-00-00-2F のパケットはフィルタリングされます。それ以外のパケットは、フラディングされます。

5.7 1000M Full Duplex 固定設定時の LED 表示について

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

拡張モジュールスロットに、拡張モジュール「AT-A51」または「AT-A53」を装着したときに、SET SWITCH PORT コマンドで SPEED=1000MFULL を指定してケーブルを接続してリンクが確立した後にケーブルを抜くと、下記の場合に、LINK LED の表示が正しくなくなります。

- ・ TX ポートのケーブルを抜くと、ケーブルを抜いた機器の LINK LED が点灯したままになる
- ・ RX ポートのケーブルを抜くと、ケーブルを抜いていない機器の LINK LED が点灯したままになる

どちらの場合も、LINK LED が点灯したままのポートのリンクステータスは、Up のままです。

5.8 MAC ベース認証ポートについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」**

MAC ベース認証ポートにおいて、認証に成功した Supplicant を定期的に再認証する設定 (ENABLE PORTAUTH PORT コマンドの REAUTHENABLED パラメーターに TRUE を指定) にしても再認証が行われません。

5.9 VLAN 名の文字数について

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

バージョン 2.7.3-06 から、VLAN 名に使用できる文字数が 15 文字から 32 文字に拡張されました。16 文字以上の VLAN 名を指定して設定を保存し、ファームウェアをバージョン 2.7.3-06

より前のものに変更して、保存した設定ファイルを起動時設定ファイルに設定すると、16文字以上のVLAN名は有効でないため、VLANの設定が反映されません。

5.10 タグVLAN併用時のSTP BPDUについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「スパニングツリープロトコル」

スパニングツリープロトコル（STP）とタグVLANの併用時、タグつきポートが単一のVLANに属する場合、BPDUにはタグを付加しません。タグつきポートが複数のVLANに属する場合は、BPDUにはタグが付加されます。

5.11 ハードウェアパケットフィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「ハードウェアパケットフィルター」

- ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドのNOMATCHACTIONパラメーターでフォルトのアクションを指定したハードウェアパケットフィルターが存在する場合、その他のフィルターにマッチするパケットに対して、このアクションが実行されてしまいます。
- 複数のマッチ条件を指定したとき、マッチ条件の型が一致するような場合には、本製品のソフトウェアでマッチ条件が一つにまとめられる場合があります。同じパケットに対する処理でも、複数のマッチ条件がまとめられた場合と、一つ一つ実行された場合で、結果が異なることがあります。

5.12 ICMP Reply の送信について

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「IP」

VLAN A、Bを作成し、それぞれのVLANに別ネットワークのアドレスを指定（VLAN Aに192.168.1.10、VLAN Bに192.168.1.20指定、VLAN内にルーターが存在）した場合に、VLAN Aに所属する端末CからVLAN B宛にICMP Requestを送信すると、VLAN AとBは異なるネットワークに所属するにも関わらず、ルーターを介さずに、VLAN AからICMP Replyが送信されます。またこの場合に、VLAN BからAへの通信にハードウェアパケットフィルターを設定していても、このICMP Replyはフィルターの条件にマッチしません。これは、ICMP Replyを送信する際に、送信先アドレスをIPアドレスのみで検索し、そのアドレスの所属するインターフェースを送信元としているためです。

5.13 DNS サーバーの動的取得について

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「IP」/「名前解決」

ADD IP DNS コマンドのINTERFACEパラメーターで、DNSサーバーアドレスをDHCPで動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNSサーバーアドレスが動的に取得されます。

5.14 ARP エントリーについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」**

- インターフェースの状態が Up になった場合、同一ポート上に登録された他の ARP エントリーはすべて削除されます。
- ARP キャッシュに学習されたポートに ICMP パケットを送信し続けた場合、ARP エントリーはエージアウトされません。

5.15 Query メッセージの送信間隔について

 **「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」**

Startup Query Interval の間隔で Query メッセージが送信されるのは、起動後に、最初に IGMP を有効にした場合のみで、一度 IGMP を無効に設定してから再度有効に設定した場合は、Startup Query Interval の間隔では送信されません。

5.16 DHCP サーバー機能について

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」**

- DHCP クライアントからのオプション 57 (Maximum DHCP Message Size) メッセージを受けられません。
- SET DHCP POLICY コマンドの TIMEOFFSET パラメーターには、マイナスの値を設定することができます。

6 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。
太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。

SHOW EXCEPTION
SHOW DEBUG [STACK]
SHOW BUFFER [SCAN] [QUEUEPOINTERS]
SHOW FLASH FFS
CLEAR FLASH TOTALLY
DELETE NVS BLOCK [INDEX]
CLEAR NVS TOTALLY
SHOW FFILE VERIFY
SHOW FFILE [DEBUG]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE
ADD USER [MTU] [NETMASK] [CBNUMBER] [IPXNETWORK] [APPLENETWORK]
[APPLEZONE] [CALLINGNUMBE]
SET USER [MASK] [MTU] [NETMASK] [CBNUMBER] [IPXNETWORK] [APPLENETWORK]
[APPLEZONE] [CALLINGNUMBE] [TACRETRIES] [TACTIMEOUT]
ENABLE MAIL DEBUG
DISABLE MAIL DEBUG
RESET MAIL
SET MAIL SMTPSERVER=ipaddr
CREATE LOG OUTPUT [LOCAL]

SET ASYN [ENABLE] [TIMEOUT] [IDLETIMEOUT] [SHELLSERVER] [TENTIMervalU]
SET TTY IDLETIMEOUT

ENABLE SWITCH DEBUG
DISABLE SWITCH DEBUG
SHOW SWITCH DEBUG
ENABLE SWITCH BIST
SHOW SWITCH BIST
SHOW SWITCH MEMORY
SET SWITCH SOCK
SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PHY
SHOW SWITCH PHY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [MODE={MASTER;SLAVE}] [IGMPACTION={DENY;REPLACE}]
[IGMPFILTER={NONE;filter-id}] [IGMPMAXGROUP={NONE;1..65535}] [VLANSTATUSTRA
P={ON;OFF}] [THRASHLIMIT={5..65536;NONE}] [THRASHREFILL=4..65536]
SET SWITCH PORT SPEED={1000MHAF;1000MFAUTO;1000MHAUTO}
ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE
ENABLE PORTAUTH DEBUG={ALL;PACKET;STATE} PORT={port-list;ALL}
DISABLE PORTAUTH DEBUG={ALL;PACKET;STATE} PORT={port-list;ALL}
ENABLE RADIUS DEBUG
DISABLE RADIUS DEBUG
SHOW RADIUS DEBUG
ENABLE DHCP Snooping DEBUG
DISABLE DHCP Snooping DEBUG
RESET DHCP Snooping COUNTER
SHOW DHCP Snooping FILTER ALL

ENABLE VLAN DEBUG
DISABLE VLAN DEBUG
SHOW VLAN DEBUG

ENABLE STP DEBUG [PORT]
DISABLE STP DEBUG [PORT]
SHOW STP DEBUG
SHOW STP[={stp-name ; ALL}] PORT={port-list;ALL} RSTPSTATE

DISABLE MSTP PORT
ENABLE MSTP PORT

ENABLE SWITCH L3FILTER SWFILTBYPASS
DISABLE SWITCH L3FILTER SWFILTBYPASS

SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
ENABLE IP DEBUG
DISABLE IP DEBUG
SHOW IP DEBUG

```
SHOW PING DEBUG
PURGE PING TOTALLY
SHOW TRACE DEBUG
SET IP [FLOW] [ARPCHECK]
SHOW IP FLOW
ENABLE TCP DEBUG
DISABLE TCP DEBUG
ENABLE IP ICMPREPLYMSG={ALL;!NETUNREACH;!HOSTUNREACH;!REDIRECT}
DISABLE IP ICMPREPLYMSG={ALL;!NETUNREACH;!HOSTUNREACH;!REDIRECT}
SHOW IP ICMPREPLYMSG
ENABLE IP [SPOOFCHECK]
DISABLE IP [SPOOFCHECK]
ADD IP INTERFACE IPADDRESS FRAGMENT
SET IP INTERFACE IPADDRESS FRAGMENT
ENABLE IP ROUTE DEBUG
DISABLE IP ROUTE DEBUG
SHOW IP ROUTE DUMP
SET IP DNS CACHE
SHOW IP DNS CACHE
ENABLE IP ARP [AGEPOLL]
DISABLE IP ARP [AGEPOLL]
SET IP ARPWAITTIMEOUT
SET IP ARP REFRESHARP
ENABLE PING POLL=1..100 DEBUG
DISABLE PING POLL=1..100 DEBU

ENABLE IP IGMP DEBUG
DISABLE IP IGMP DEBUG
SHOW IP IGMP DEBUG
CREATE IP IGMP DESTINATION
ADD IP IGMP DESTINATION
DELETE IP IGMP DESTINATION
DESTROY IP IGMP DESTINATION
ENABLE IP IGMP ALLGROUP
DISABLE IP IGMP ALLGROUP
ADD IGMP FILTER
CREATE IGMP FILTER
DELETE IGMP FILTER
DESTROY IGMP FILTER
SET IGMP FILTER
SHOW IGMP FILTER
ADD IGMP SNOOPING ROUTERADDRESS
DELETE IGMP SNOOPING ROUTERADDRESS
SET IGMP SNOOPING ROUTERMODE
SHOW IGMP SNOOPING ROUTERADDRESS
SET IGMP SNOOPING ROUTERMODE FASTLEAVE

ENABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]
```

DISABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]

LOAD [SERVER=ip6add]

UPLOAD [SERVER=ip6add]

SET LOADER [SERVER=ip6add]

ADD USER RSO IP=ip6add

DELETE USER RSO IP=ip6add

ADD PING POLL IPADDRESS=ip6add

SET PING POLL [IPADDRESS=ip6add]

ENABLE MLDSNOOPING DEBUG

DISABLE MLDSNOOPING DEBUG

ENABLE TEST INTERFACE

DISABLE TEST INTERFACE

SHOW TEST [INTERFACE]

RESET TEST INTRFACE

SHOW PKT

SET PKT

START PKT

STOP PKT

SHOW DEBUG [STACK]

MODIFY

DUMP

7 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM 8316XL/8324XL コマンドリファレンス 2.7 (J613-M0249-11 Rev.F)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「J613-M0249-11 Rev.F」はコマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-tesis.co.jp/>